

◆香川県

投稿日：2003年12月8日

氏名：ダンブルドア(守家正祐)

(ちなみにダンブルドアは県庁内の
電子会議室にカキコするときのハンドル
ネームです。)

所属：自治研修所



■サロン

1. オフサイトミーティングもどきが始まり

自治研修所では、平成14年度から職場の風土・体質改革に取組み始め、スコラ・コンサル柴田昌治さんの講演や職場風土改革基礎講座の実施をしてきたことは、このHPの香川県の取組み事例に紹介されているところです。

この取組みは研修所の他の職員が担当していたのですが、その主体的に取組まれている姿勢に共感して、何かお手伝いは出来ないかと思ったことがこの始まりです。また、行政企画課が行っていた民間企業や海外へ派遣された職員との職員同士の意見交換会に参加して、結構元気な職員もいるものだったことでした。

元気のある職員でオフサイトミーティングが出来れば面白いのではと思い、軽い気持ちでオフサイトミーティングもどきを開催することにしました。「もどき」というのは、いまでも、オフサイトミーティングを本当に理解しているとは言えないからです。

2. 「サロン」って何か？

最初、前述意見交換会の参加者に声をかけて、研修所の食堂で夕刻から気楽にまじめな雑談をすることを、職場風土改革基礎講座の担当の方と2人で企画しました。単にオフサイトミーティングをしますといっても胡散臭く思われるので、適当なテーマを設けました。確か、研修についての意見を聞かせて欲しいといったものでした。なお、この会は、開催場所は研修所ですがあくまで私的な会です。

2、3回開催していくと、「オフサイトミーティング」という言葉が参加者に認知され、話題にする内容の方向性がみえてきたと思います。この会の性格付けがこのとき出来たと思います。

サロンと名づけたのは実は誰か分かりません。ただ、名前は当を得たものだと思います。この会のコンセプトとしては、気楽にまじめな話をするものであることはもちろんとして、

- (1) 相手を否定しない(ある参加者の方の言葉を借りれば、切りあいをしないということ)
- (2) ロコミで参加者を広げる(参加してみて面白いと感じたら、自分の言葉で説明して参加者を増やす)
- (3) ○○会というものでなく、ある時にある場所に行けば、面白い人たちが自主的に集まっていて自然と話の輪が広がっている(メンバーを固定しない)
- (4) 改革、変革を大上段に構えての議論でなく、お互いの想いを語って学ぶ(明るく楽しい)
- (5) 話の途中での出入り、飲食自由

などで、これらを一言で言い表すと「サロン」になったと思います。

ところで、これらは、個人的に思うことで、他の参加者の方がどう感じているかわかりません。とにかく、仕切るものがない代わりに、とてもファジーなものです。

また、オフサイトミーティングをしていると思い込んでいますが、サロンは似て非なるものかもしれません。メンバーが固定しているわけではなく、共有ビジョンを持って何か成果を出そうとしようとするわけではなく、スポンサーシップがあるわけでもないからです。ただ言えることは、元気な職員の交流の場です。組織の中で、想いを持つ者が磨耗せず、孤立せず、元気を維持続けるための、出会いネットワークをつくる場であることは間違いありません。



3. アメーバー増殖型

サロンは、2002年6月に誕生し、2003年11月で公式の開催が16回です。公式というのは、開催を呼びかけて開催した回数で、自主的に集まったり、2・3人で集まったり、飲み会をしたりしたことなどは入っていません。ちなみに、近頃は午後9:00までと、時間を決めてやっていますが、それまでは、午後6:00から始めて、終わってみると次ぎの日(午前様?)になっていることもしばしばでした。それでも不思議と次ぎの日に疲れが残らず、反対に元気になっているのが、サロンのサロンたるゆえんだとメンバーの誰かが言うておりましたが...?

いつもの参加人数は10名くらいで、コアメンバーは、20名弱と思います。一回でも参加された方は、60名くらいです。サロンでは、時々ゲストを迎えて、話しを聞きます。ゲストとして呼び出した方には、県庁の課長方々、NPOの方々、企業の方々、マスコミの方が来て、想いを本音で語ってくれました。嬉しいことに、ゲストとして来られた方もコアメンバーとなって参加していただいています。

また、今は県庁職員だけでなく、民間企業の方も一緒になったサロンとなっています。

とにかく、参加自由で、座標軸のない、とらえどころのない会ですが、アメーバのような増殖型といえるかもしれません。

4. スポンサーがいなくても

オフサイトミーティングには、スポンサーが大切と聞きます。ビジョンがあつてこうしたいというトップの強い想いがあつて、それを皆で共有するプロセス(ミーティング)と言えるかもしれません。

もし、スポンサーシップがない場合、オフサイトミーティングが成立するのでしょうか。

サロンについては、いつもこれが課題です。もしかしたら、世話人シップがあればスポンサーシップの代用が利くのではないのでしょうか。

世話人シップというのは勝手な造語ですが、スポンサーシップが期待できない場合は、世話人の役割が大きくなり、また、質も変わるようになると思います。さらに、世話人はひとりだけでなく、複数人必要とも思います。世話人の一般的なイメージのように、裏方に徹して準備し、場を用意するだけでなく、ファシリテーターとして、耳を傾け、人同士の触媒になり、飽きられないよう仕掛けをしないとイケないと思います。より情熱、スキルなどがいりますし、苦労は相当だと思います。とにかく、継続は力なりなので、参加者が来るように続ける苦労が大切だと思います。

サロンに世話人シップがあると断言はできませんが、コアメンバーの方々が相互にその役割をやっていっているようにも思います。ただ、本当は、サロンは、アメーバ増殖型なので、世話人もいないのが本当は理想です。

5. 何が変わった?

サロンをしてみて、今のところ何が変わったかといわれれば、風土、組織は全く変わっていないと思います。また、サロンとして何かしたかと問われても特にありません。

しかし、徐々にですが、2~3の参加者の職場においてオフサイトミーティングが行われ始めていますし、その取組み状況を聞くことによって、お互い勇気付けられます。参加者個人としても、職場でしたこと、あつたことを話して面白く、参考になるようです。ある参加者からは、官僚的組織の風土病は根深いが、そんな中でも、やる気を持っていける場がサロンだとも言われたりします。

6. ティッピング・ポイント

最近では、20年後、30年後、このサロンがどうなっているか楽しみと想いを共有しています。風土が変わって少しでも楽しく働けるようになればと思いますが、焦らず、サロンを継続して、参加者を少しでも増やすことが第一の目標です。いつかの時点で臨界点(tipping point)があつて、変化が顕在化すると信じて継続しています。変化を起こすには、案外口コミだと思い、サロンを宣伝や公開しない理由はそこにあります。

特に感じるのですが、オフサイトミーティングもどきを最初はしていたのですが、サロンは、お互いに、学びあうコミュニティと思うようになってきたところ。学習する組織のワンステップかもしれません。今後は楽しみです。

私(私たち)の悩みや課題

「気楽にまじめに楽しく」がモットーなので、何事もポジティブ思考です。

「悩みや課題」といったネガティブ言語は私にはありません。(多分)申し訳ありません。このご質問については、回答不能です。

夢と冒険なら、あります。

参加者の方々は、「癒し」、「勇気」、「元気」という言葉をよく使われます。